

菊川西中だより

校長室の窓

Think globally!!
Act locally!!

(オレゴン州ポートランド空港で)



私は校長になって子どもたちの前で話をするようになってから「自分の言いたい事は〇〇、そして5分以内でお話します。」と約束して去年は3つの内容を提示しましたが、今年はそれに『学校から地域へ地域から全国(世界)へ飛び出そう。』と言う柱を一本追加しました。この理由は、タイトルの英文が元でした。これは「地球規模で考え、地域で行動しよう」という意味で、もともと『環境教育』の分野で言われていた言葉です。「中国のPM2.5」の問題もそうですが一国の環境問題はその国だけの問題にとどまりません。だから「Think globally」(地球規模で考えよう)です。しかし、「世界は…」と書いていても問題は一向に解決しません。そこで、「Act locally」(地域で活動しよう)です。「ごみの分別」「二酸化炭素の排出量を減らす」など一人ひとりが出来ることを地域で始めることによって問題が解決できるのです。現在のわが国の学校教育は、総合的な学習の時間等「自分たちの出来ることを地域で……」と言う視点は良いと思いますが、私は世界情勢から「地球規模で考える(Think globally)」という姿勢も絶対に大切だという思い、4本目の柱を立てたわけです。

私は33才の時、掛川市と米国オレゴン州ユージン市との姉妹都市締結に伴う「中高大学生交流プログラム」の団長として、20人の中高大学生を連れてユージン市でショートステイした事があります。私は、ユージン市の学校への表敬訪問が予定されていた事もあり、観光旅行のラフな格好ではなく、背広にネクタイ姿でした。オレゴンポートランド空港に着くと、入国審査で入国の目的を「Sight Seeing(観光旅行)」と言ったのに、背広姿なのを不審に思われたのか止められてしまいました。そして、手に持っていた包みを指して「これは何だ?」と聞かれます。実は、当時の掛川市長からオレゴンに掛川市が所有している農場のマネージャへのお土産を持っていたのですがそれが何なのか聞かされていなかったので「This is a gift from our mayor. But I don't know what in it.(私たちの市長からのお土産だが何が入っているか知らない)」となれない英語を使って答えます。「May I open it?(開けてもいいか)」「……………」お土産の包みを開けられると困るのでどうしようかと思っていたら『**どうしましたか〜?**』と日本語で話しかけてくれる職員がいました。うれしくなって「これ、市長からのお土産なんだけれど、ここで包みを開けられては相手方に失礼になると思って……」と、日本語でまくし立てると、彼はキョトンとしています。なんと彼が話せる日本語は**どうしましたか**だけだったようです。結局包みは開けられ、彼らは出てきた煎餅を見て「Oh! Rice cake!」と笑いながら通してくれました。それでも英語づけで困っていた私に一言でも日本語で話しかけてくれた空港職員に感謝です。どれだけ安心したことか。それ以来、私は外国人(英語圏の方)には比較的日本語が話せる人にも英語で話しかけるようにしています。私の下手な英語でも彼らを安心させるのではないかと思うからです。菊西中の子どもたちには外国語の会話はもちろん、いつでも「私たち以外に世界中に人々が暮らしている」という意識を持ってもらいたくて4本目の柱を追加する事を決めました。「世界で活躍する菊西中生」は私の夢でもあります。(文責 校長)